

部 長 近 藤 健 一
研究主任 山 口 千 草
部 員 数 3 7 名

1 研究主題

鑑賞学習の向上を目指した実践、及び実技研修

2 はじめに

手先の不器用な子どもたちが増えていると言われて久しい中、図画工作・美術科では、どのように目的を達成させたらよいのかと試行錯誤の日々が続いている。しかし、子どもたちに余裕をもって表現に取り組ませたいと考えたとき、鑑賞の時間が減ってしまうというジレンマを抱えてしまう。また、図画工作が専門ではない教師が、図画工作进行を指導する上での不安も一定数あることがわかっている。そこで今年度は、実技指導と鑑賞学習の向上を目指した実践を目標に、研究主題を設定した。

3 研究経過

(1) 図画工作科・美術科指導

ア 教員の苦手意識調査	(4/23)
イ 苦手項目に対する改善策	(5/7)
ウ 小学1年生の鑑賞授業提案と実践	(6/11)
エ 実技講習会（液体粘度）	(1/14)
オ 鑑賞実践（メナード美術館）	(2/4)

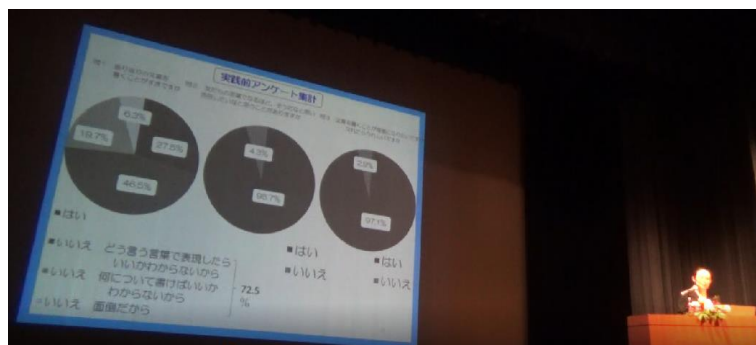
(2) 図工・美術競技会、教育展

ア 教材研究 実技	(7/2)
イ 競技会・教育展の反省	(11/12)

(3) 研究発表の検討・報告

ア 愛日研究発表内容検討・準備	(9/10)
イ 愛日研究発表打ち合わせ・リハーサル	(10/8)
ウ 研究発表（豊明市文化会館）	(10/25)
エ 全造連研究発表 内容検討	(11/12)

写－1
愛日研究発表の様子



4 研究の概要

- (1)ーア 指導に対する教員の苦手意識調査を把握する目的で、記述式アンケートを実施し、苦手項目を抽出した。今年度は鑑賞に焦点を絞り検討することとした。
- (1)ーイ 苦手項目に対する改善策として、経験の多い教師の助言や他校の事例などから改善策を練った。
- (1)ーウ 小学校1年生の鑑賞実践（単元名：でこぼこはっけん）を提案し、教員が児童役となり実践した。
- (1)ーエ 実践講習として、実技には教材メーカーから講師を招き、新しい材料の使い方を学ぶと共に、各々の苦手分野の経験を積む。自分の授業、児童生徒や学校に合うように変え、それぞれの目的に合わせて実施した。
- (1)ーオ メナード美術館へ出向き、実際の作品を見ながら鑑賞授業について、各学年の検討をした。
- (2)ーア 競技会で使用する教材の研究を、実際に試作し、対策を練った。
- (2)ーイ 図工・美術競技会・教育展の反省では、教育展終了後に、競技会の準備までに困ったこと、当日困ったこと、教育展の搬入や搬出で困ったことなどをあげ、小牧市文化部へ提出した。
- (3) 研究発表の検討・報告では、各発表に向け、準備と発表練習、検討を行い、発表へ向け整えた。また、その後報告をし、次の研究発表へつなげた。



写－2
研究発表検討の様子①



写－3
研究発表検討の様子②

5 今後の課題

今年度は、研究発表が重なったため、そのための検討会や準備、報告で多くの時間を使わざるをえなかった。発表が中学校領域でという指定だったので、小学校の先生が日頃の授業で役立てられるような実践検討をおこなえる時間が少なくなってしまった。経験が浅く、指導上の悩みを抱えた教員にとって、造形研究会での実践講習や、経験年数が多い教員との交流は大いに参考となるため、次年度は回数を増やし、今後の授業にこれらの活動が活かされるようにしていきたい。